

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第九主日礼拝 2020年8月2日 ファミリー礼拝

前奏：

はじめのことば

牧 師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン

会 衆：**アーメン**

牧 師：主よ、わたしのくちびるを開いてください。

会 衆：**そうすれば、私の口はあなたの誉れを告げるでしょう。**

一 同：初めにそうであったように、今もそしてとこしえまでも父と御子と聖霊の神に、
栄光がありますように。アーメン

賛美 子ども讃美歌 14番

1. うれしい朝よ、空はあおく 光あかるく てりわたるよ

<繰り返し>このきよい日に このよい日に みんなで神さま たたえましょう

2. すべてのものは 声をあわせ 神のさかえを ほめうたうよ **<繰り返し>**

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。
アーメン。

交読文 詩編145編8-9節、17-19節

司会者：主は恵みに富み、憐れみ深く

会 衆：忍耐強く、慈しみに満ちておられます。

司会者：主はすべてのものに恵みを与え

会 衆：造られたすべてのものを憐れんでくださいます。

司会者：主の道はことごとく正しく

会 衆：みわざは慈しみを示しています。

司会者：主を呼ぶ人すべてに近くいまし

会衆：まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし

一同：主を畏れる人々の望みをかなえ叫びを聞いて救ってくださいます。

小教理問答

司式者：**「使徒信条」第一条 創造について**：私は、天地の造り主、何でもお出来になるお方、父なる神を信じます。これはなに？

会衆：神は、私を全てのものと、共につくったと信じます。体や魂、目と耳、手足、理性や全ての感覚を、神が私に与えてくださり 今も保つと信じます。

さらに服、靴、食べ物、飲み物、家や、庭や、妻、子ども、土地や、家畜や、全財産を、私の体と生活に要る 全てと栄養と共に、神は豊かに毎日くださり、全ての危険をさえぎって、あらゆる悪から私を守り 保護してくれると 信じます。

そしてこれらは まったく私の てがらや値打ちの ゆえでなく、純粹に 父なる神の 慈しみとあわれみゆえです。これら全ての ことのため、わたしは神に感謝して、賛美し、仕え、従うだけです。これこそ確かに 真実です。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

私たちは皆、だれかに助けられて育てられ、誰かに見守られて生きています。神様、あなたが私たちを大切にしてくださって、私たち一人一人が毎日豊かな心で暮らすことができるように、私たちがよい人々と出会うことができるようにお計らいくださいます。私たちも誰かを助けて、誰かの役に立って生きていくことができますように、導いてください。神様と交わり、人々を大切にするすばらしい一週間にしてください。あらゆる危険やわざわいから私たちをお守りください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

福音書朗読：マタイによる福音書 14章 13-21 節

イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買って行くでしょう。」イエスは言われた。

「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、群衆には草の上座るようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。

讃美歌 242 番

1. 「悩むものよ われに来よ」と 恵みの主は 招きたもう。
重荷 負いて あえぐ友よ、主のみもとに 来たり憩(いこ)え。
2. 「悩むものよ われに来よ」と 光の主は 招きたもう。
暗き道に 迷う友よ、主のみもとに いそぎ帰れ。
3. 「悩むものよ、われに来よ」と 救いの主は 招きたもう。
罪を悔いて なげく友よ、主のゆるしの みこえ聞けや。 アーメン

説教：「すべての人が食べて満腹した」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様には 12 人のお弟子がいました。このお弟子たちはひとりひとりイエス様がお弟子になるように招かれた人々です。お弟子たちはイエス様に従って毎日イエス様と一緒に過ごしました。そしてイエス様は 12 人のお弟子たちに信仰の訓練をしました。神様を信じるということはどういうことなのかを教えました。お弟子たちはイエス様のなさること、イエス様が人々とお話していることを見たり聞いたりしながら、学んでいきました。

今日読まれた聖書の個所では、驚きの命令があります。男の人だけで 5000 人と書いてありますから、5000 世帯の人々に食べるものを与えなさい、という命令です。5000 世帯というと、奥さんや子供さんも入れたら 15000 人とか 20000 人とか、かなりの人数になりますね。12 人のお弟子たちでそんなにたくさんの人にお弁当を用意することはできるのでしょうか。お弁当屋さんは一日 350 食くらい売ったら成り立つとのこと、単純に考えてお弁当さんが 60 軒近くにあつたらいい人数です。

お弟子たちがどんな命令を受けたのか、少し状況を考えてみましょう。13 節を見ると、人里離れたところだったことがわかります。そもそもお弁当さんは一軒もないところです。イエス様はバプテスマのヨハネという友達が恐ろしいヘロデ王に殺された、というニュースを聞いて、お弟子の舟に乗って湖の反対側に行って、ひとり町から離れて静かに考えたりお祈りをしたりしようとなさいました。すると、イエス様がどこかに行かれるのを聞きつけた人々が、いろんな町から大勢歩いてイエス様の目的地の港まで先回りしていたようです。そこでイエス様は集まっている群衆を見て、助けてあげたい、と思われて、病気の人たちを治してあげました。人々はとても喜んだと思います。

一生懸命働いておられるイエス様のそばで、夕方になって日暮れが近くなってきたことに気が付いたお弟子たちは、だんだん心配になってきました。この調子では日が暮れてしまう。ご飯も食べないでいたらみんな困ってしまう。そう思ってイエス様に言いました。「ここは町から離れています。だいぶ時間がたちました。みんなを解散させてください。そうしたらみんなは自分で近くの村にでも行って夕食を買うこともできるでしょう。」イエス様はそのお弟子たちに、「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べるものを与えなさい。」と言われました。この命令の背景にはこんな状況があったのです。

でもそんなにたくさんのお店はあったのでしょうか。お弟子たちはそんなことは私たちの責任ではない。自分たちがイエス様のところに来たのだから、ごはんも自分たちで用意するのが当たり前のことでしょうか、と考えていました。この出来事は 4 つの福音書すべてに記録されています。ヨハネ福音書ではお弟子のひとりのピリポがイエス様に、そんなことは無理です、お弁当さんがあったとしてもひとり少しずつのご飯を買うのに 200 万円以上かかります、言っています。別のお弟子のアンデレは、大麦のパン 5 つと魚 2 匹を持ってきていた少年を探し出していました。でもそれは少年のものでし、それを群衆でわけることなど考えられません。

イエス様は困ってしまったお弟子たちに、そのパンと魚を持ってきなさい、と言われ、また群衆には草の上に 50 人ずつくらいの組になって座るように言われました。何が起こるのでしょう。イエス様は 5 つのパンと 2 匹の魚をとって、天を仰いで賛美の祈りを唱えて、パンを割いて弟子たちに渡しました。どうやってそんなことができたのか、弟子たち

にも私たちにもわかりません。でも、弟子たちは言われた通り、自分たちの手で人々にパンと魚を与えていきました。気が付いたら、みんな満腹していました。お弟子たちはそれぞれ背中に背負うタイプの籐で編んだような大きな籠に、残ったパンくずを集めたら、12の籠にいっぱいになった、と書いてあります。

お弟子たちはこのような特別な体験をしました。一生覚えていたでしょう。人々も驚いたでしょう。イエス様は予想を超えた、考えられないことをしてくださる方なのだ、と身をもって経験し、イエス様のことをもっと信じたと思います。これがイエス様の信仰の訓練でした。

イエス様がなされた訓練をまとめてみると、少なくとも3つのことが言えます。それによって私たちに神様が今朝何を語ってくださるかがはっきりします。

ひとつは、イエス様は「あなたがたの手で人々に食べ物を与えなさい」と言われて、お弟子たちに群衆のことをお世話するようにとお命じになったことです。イエス様は私たちにも、自分のことだけではなくて、人々のお世話をするように願っておられます。家族を考えてください。友達を考えてください。毎日の生活を振り返ってください。神様はあなたにも人の役に立つ毎日を送りなさい、と言われます。

それはどんなことでしょうか。お弟子たちの場合、このときは夕食のお世話でした。食べ物がない人がいたら、あなたはどうしますか。でもほかのことも考えてみましょう。たとえばですが、お話を聞いてくれる友達がなくて困っている人がいたら、あなたはどうやってその人と親しくなりますか。人はみんな、悩みがあります。心があるからです。そして人はだれも一人で生きていけません。心から信頼できる誰かを必要としています。イエス様はあなたに自分だけの夢をかなえて満足する人生ではなく、出会う人々を大切にして、誰かの役にたつ人生を送るように願っておられます。

二つ目は、イエス様はお弟子たちは絶望したことをご覧になったことです。お弟子たちはいろいろ考えてみました。ピリポはお金の計算をし、アンデレはお弁当をもっている少年を見つけました。でも結論は、群衆を助けるには自分たちにはどうしても無理だ、ということでした。

あなたはいかがでしょう。世の中のいろんな問題どころか、ひとりの人を助けることも難しいのです。どんなにお金があったとしても、どんなに時間があったとしても、人を完全に助けることはとても難しいことです。自分にはそれだけの愛があるだろうか、自分には自分のことを横に置いておいて、人のことを優先して考えたり行動したりすることはできるだろうか。

でも三つ目に、イエス様はご自分に信頼するように教えました。イエス様に信頼して5つのパンと2匹の魚をお渡ししたら、イエス様がだれにもできない奇跡をしてくださって、お弟子たちが自分たちの手で食べ物を群衆に渡せるようにしてくださいました。

あなたにとって5つのパンと2匹の魚って何でしょうか。それはあなたのすべて、あなたのもっているすべてです。あなたがイエス様に信頼してお任せする時、イエス様が奇跡を起こしてあなたを用い、あなたを鍛えて、人々の役に立つ人生を送らせてくださいます。

イエス様がひとりになりたい、と思って舟で寂しいところに行かれたとき、そこに集まった群衆を見て、深くあわれまれ、助けてあげたい、と思われました。イエス様はそのようなお方です。お弟子たちはそのイエス様のお弟子として、人々が病気を治してもらうだけではなく、おなかも満腹になるお世話をすることができました。

イエス様は私たちも助けてくださいます。私たちは自分中心、わがままで、心の中にほんとうの愛のかけらもありません。神様を敬わず、人を傷つけてしまいます。私たちは罪びとです。でも自分でどうにもできませんし、その責任を取ることもできません。イエス様は最後は十字架にかかって死なれました。でも、それは罪のないイエス様があなたや私にかわって、神様の前に罪の責任をとってくださった死でした。そしてよみがえってくださり、今も私たちとともにいてくださいます。私たちは洗礼によってイエス様の死とよみがえりとひとつにさせていただいて、自分のためだけに生きるのではなくて、人の役に立っていきたいという新しい心をいただいて、毎日生き生き生きるようになります。イエス様はあなたにもイエス様を信頼する信仰をあたえ、また育ててくださいます。

人々の必要を見えていますか。自分の無力に絶望していますか。イエス様に信頼しましょう。人々が満腹するまでイエス様からあずかった食べ物を配ってまわったあのお弟子たちのように、あなたのこの一週間も、たくさんの人に役に立つ人生の喜びを味わう一週間になりますように。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

献金のうた

1. 今ささげる このけんきん、ごように使ってくださいませ。
2. 私たちの 身と心も おささげできるよう お願いします。 アーメン

讃美歌 294 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 み恵みゆたけき 主の手にひかれて、この世の旅路を あゆむぞ うれしき。
<繰り返し>たえなる恵みを日に日に受けつつ、みあとをゆくこそ こよなきなれ。

- 2 さびしき野べにも にぎわう里にも、主ともにいまして われをぞ みちびく。
<繰り返し>
- 3 けわしき山路も、おぐらき谷間も 主の手にすがりて やすけく過ぎまし。
<繰り返し>
- 4 世の旅はてなば 死のかわなみをも、恐れず越えゆかん、み助け たのみて。
<繰り返し> アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の大御神(みかみ)に ときわにたえせず み栄あれ、み栄あれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、今御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえま
でも、豊かにありますように。 **アーメン**。

後奏